令和８年度 東京都建築技術発表会
結果発表

令和８年 11 月 13 日、都民ホールにて「令和８年度東京都建築技術発表会」を開催しました。
各賞の受賞者及び講評について、以下のとおり発表いたします。

財務局長から



発表された皆様におかれましては、多忙な業務の中、作品の論文作成から、プレゼンテーションの準備、当日の発表まで、大変お疲れ様でした。

今年も会場での聴講に加えて、オンライン配信を併用し、多くの方に聴講していただけたと感じています。

発表会では、庁内に加え、市、公社といった庁外の組織の方も参加されました。様々な組織における取組を発表することで、幅広い技術情報を共有できる有意義な機会になったと思います。

また、特別記念講演では、五十嵐太郎先生に貴重なご講演をいただきました。「アワードと展覧会を通して公共建築を考える」というテーマで、普段とは異なる視点から公共建築を考えさせられるとともに、アワードの裏側やプロセスを垣間見ることもでき、これからの建築のあり方について考える貴重な機会となりました。今後の施設整備にも大いに役立つものと考えております。

さて、現在、都では、環境負荷の低減や都市の強靭化など都政の重要課題に的確に対応するため、都有施設について、「第三次 主要施設１０か年維持更新計画」に基づき、事業を着実に実施しています。

公共施設の整備に当たっては、防災対応力の強化、長寿命化の推進、環境負荷の一層の低減やカーボンニュートラルの実現、働き方改革への対応やＤＸの推進、生産性向上の取組など、行政に対するニーズがますます多様化しております。

こうしたニーズに応え、施設整備を進めていくためには、職員一人ひとりが常に問題意識を持つとともに、課題解決に向けて研鑽を積んでいくことが大事です。

本発表会を通じて得た知識や情報を職務に活かし、建築技術に対する時代の要請に的確に応え、良好な公共施設の整備に努めていただくことをお願いします。

東京都財務局長　　田中　慎一

各賞の受賞者一覧

最優秀賞

保全コールセンターの AX 化

〔財務局建築保全部工務課、経理部総務課〕

優秀賞

公社用賀住宅建替え事業における取組みについて

〔東京都住宅供給公社住宅総合企画部建設推進課〕

市営住宅の断熱窓改修 ～効果・コスト・施工性から最適解を探る～

〔多摩市企画政策部施設保全課〕

技術賞

都立城南職業能力開発センター大田校の整備について

〔財務局建築保全部施設整備第一課〕

都立桐ヶ丘高校の整備について ～多様な学びと居場所を支える学校づくり～

〔財務局建築保全部施設整備第二課〕

水道局研修・開発センター　太陽光発電設備の整備について

〔水道局経理部営繕課〕

（賞ごとに発表順）



財務局建築保全部工務課の発表風景



※最優秀賞を受賞した財務局建築保全部工務課、経理部総務課の作品は令和９度関東地方整備局のスキルアップセミナーへの推薦候補となります。

特別記念講演

講師： 五十嵐　太郎氏
（いがらし　たろう）
建築史・建築批評家
東北大学大学院教授

「アワードと展覧会を通して公共建築を考える」

講演で取り上げられた主な作品：
「霞ヶ浦どうぶつとみんなのいえ」「倉吉市庁舎」
「最高裁判所」「キリン・プラザ・大阪」「関西国際空港」
「茅野市民会館」「東京都庁舎」「東京国際フォーラム」
「せんだいメディアテーク」「横浜港大桟橋客船ターミナル」
「大船渡市民文化会館・市立図書館/リアスホール」

各作品の講評

プログラム１ 都立城南職業能力開発センター大田校の 整備について	プログラム２ 保全コールセンターの AX 化
職業訓練施設の特性を踏まえ、機能的な実習環境と将来の柔軟性を両立させるために、どのような考え方で設計をまとめたのか、わかりやすく説明してくれました。 将来の実習機器の更新や科目改編にも対応できるよう計画するとともに、地域とのつながりを育む設え、多目的室での木材利用など、施設を特徴づける工夫を随所に取り入れています。 施設が地域に馴染み、時代の変化にも適応しながら末永く活用されていくことを期待しています。	各局の施設管理者から寄せられる相談が増加している状況を受け、都庁の生成 AI プラットフォーム（A１）を活用し、定型的な相談に対応するアプリを自ら開発した取組を紹介してくれました。 アプリの開発後も、アプリを試した利用者の声を踏まえながら改善を繰り返し、実用レベルにまで完成度を高めています。 所管課の業務にとどまらず、各局の維持保全業務の効率化にもつながる、有益な取組であると感じました。
プログラム３ 公社用賀住宅建替え事業における取組みについて	プログラム４ 都立桐ヶ丘高校の整備について ～多様な学びと居場所を支える学校づくり～
老朽化した公社住宅の建替えに併せて、子育て支援、ペットとの共生、コミュニティの形成、環境への配慮など、多様な社会的ニーズを踏まえて、どのような住宅を整備したか説明してくれました。 ハード面の整備にとどまらず、運営や管理といったソフト面も含めて質の高い居住環境を提供している点が特徴的です。 これからの公的住宅の方向性を考える上で、非常に参考になる発表でした。	不登校経験等のある生徒が学ぶチャレンジスクールの教育理念を実現するため、生徒が居場所を見つけ、交流を広げていくよう多様なスペースを整備し、竣工後に利用状況を検証しました。 また、時間外労働の上限規制の影響など、工事中に様々な問題に直面しましたが、その都度、解決してきました。 建築という器が教育をどのように支えられるかということを考える上で、大変興味深い発表でした。
プログラム５ 市営住宅の断熱窓改修 ～効果・コスト・施工性から最適解を探る～	プログラム６ 水道局研修・開発センター 太陽光発電設備の整備について
既存施設の断熱性能の向上に有効な改修手法として、熱の出入りの多い窓の断熱化に着目し、多摩市の市営住宅で断熱窓改修を実施して効果を確かめる取組でした。 実測調査や居住者アンケートによって、断熱窓改修は比較的、低コストで高い効果が得られる手法であることが実証されています。 個別の状況に応じてアレンジは必要ですが、改修工事を検討する際に役立つ内容となっています。	水道局では、浄水場などのプラント施設で太陽光発電設備を設置してきましたが、庁舎において初めて設置した取組について発表してくれました。 計画段階における検討内容を整理しただけでなく、発電した電力について、計画時の想定と運用後の実績を対比しています。 今後の既存庁舎への展開を考える際に参考となる知見が整理されたことは、実務的に大きな価値があると感じました。

本年度も皆様にご協力・ご参加いただき、
無事に開催することができました。
ありがとうございました。

東京都建築技術発表会事務局
財務局建築保全部技術管理課